



10月より新しく赴任された先生方の紹介です。  
連携機関の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



(いくしま ひろゆき)  
氏名：生島 寛享  
役職名：耳鼻いんこう科医長  
出身大学：信州大学

所属学会：日本耳鼻咽喉科学会、日本鼻科学会  
専門分野：耳鼻咽喉科一般  
ひとこと：どうぞよろしくお願いします。



(たにむら ふみと)  
氏名：谷村 史人  
役職名：産婦人科 医師  
出身大学：岩手医科大学

所属学会：日本産婦人科学会  
ひとこと：ひとりでも多くの産婦人科患者さん(女性患者さん)の力になれるようがんばっていききたいと思ひます！



(はぎはら たつや)  
氏名：萩原 達也  
役職名：産婦人科 医師  
出身大学：東北大学

所属学会：日本産婦人科学会  
ひとこと：患者様に寄り添う診療を心掛けています。

## 紹介率・逆紹介率

当院は、平成25年10月より地域医療支援病院の指定を受けております。患者に身近な地域で医療を提供されることが望ましいという観点の元、地域の中核病院として各医療機関と適切な連携を図っていくよう努めております。そうしたなかで、紹介率・逆紹介率は、第一線の地域医療を担う、かかりつけ医を支援する一指標として用いられており、地域医療支援病院の承認要件(当院では紹介率50%越え、かつ、逆紹介率が70%を超えること)ともなっています。



皆様のご協力のおかげで、今年度の紹介率・逆紹介率の承認要件を満たすことができしております。  
誠にありがとうございます。



# 連携いあい

平成31年1月  
第22号  
岩手県立磐井病院

## 認知症サポートチーム (オレンジサポートチームの活動)



我が国では超高齢者社会に突入し、それに伴って認知症の方の入院が増えており、医療の現場では様々な職種が、増加する認知症の方への対応に追われています。認知症の症状は、生活習慣や職業、性格などが大きく影響しているため、様々な症状を呈します。そのため、その方に合ったきめ細やかなケアが必要となります。特に急性期病院においては、疾患・検査・治療による苦痛だけではなく、入院という急激な環境変化があり、認知症の方はとても混乱した状況に陥りやすくなります。

そのような方に安心・安全な医療を提供できるように、8月から認知症サポートチーム(オレンジサポートチーム)が立ち上がりました。チームは神経内科医師・社会事業福祉士・認知症看護認定看護師・薬剤師・作業療法士・臨床検査技師・認知症プロジェクトメンバー(看護科)で構成されています。週一回のラウンドを通して、認知症による行動・心理症状のある方や、意思疎通が困難で身体疾患の治療への影響が見込まれる方に対し、以下の項目に重点を置き、ケア方法の検討およびスタッフへの指導を行っています。

- 1) 身体疾患を合併して入院した認知症者への対応力とケアの質を向上させること
- 2) せん妄や行動・心理症状の予防および初期介入を適切に行い、認知症者のQOL低下を防ぐとともに、認知症者・家族の心理的・身体的苦痛を軽減すること
- 3) 多職種の視点で認知症者の状態を把握・評価し、症状の悪化を防ぐことや、身体疾患の治療が円滑に受けられるようにすること

始まってまだ間もないのですが、毎週のラウンドの際には、認知症の方の笑顔が増えた、ご自身で食事を摂取できるようになった、自力でトイレまで歩行できるようになったなどの成果が出ています。これからも職員や地域の皆さんと協力しながら、認知症の方にやさしい病院づくりに貢献していきたく思います。

認知症看護認定看護師 渡邊 加奈子

### <岩手県立磐井病院 理念>

地域の皆様に納得のできる医療を提供します

### <岩手県立磐井病院 行動指針>

- ① 患者さんの希望や背景を尊重します。
- ② 患者さんの個人情報を守ります。
- ③ 患者さんの安全に配慮し診療に全力を尽くします。
- ④ 地域における医療・介護・福祉の連携に貢献します。

## Contents

- 認知症サポートチーム(オレンジチームの活動)・1
- 次期経営計画(最終案)の骨子と県立磐井病院の今後の方向性・・・2,3
- 県南地区入退院支援看護師等連携会議を終えて・2
- 認知症の研修会を開催しました・・・3
- 新任医師の紹介・・・4
- 紹介率・逆紹介率・・・4

# 岩手県立磐井病院

### 【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17  
電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691  
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

### 【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室  
病院ホームページ:<http://www.iwai-hp.com>  
公式 Facebook:<http://www.facebook.com/iwaihp>



# 「次期経営計画（最終案）の骨子と県立磐井病院の今後の方向性」

事務局長 小笠原 秀俊

磐井病院を含む県立病院の経営の基本となる「経営計画」については、現在、平成31年度（2019年4月～）を初年度とする6年間を対象とする「次期経営計画」の策定作業が進められています。

これまでに、①県医療局が策定した「素案」について、県議会・市町村に提示、説明、②県議会・市町村から寄せられた意見をもとに内容を一部見直した「中間案」の策定、③「中間案」をもとにパブリック・コメントを実施し意見集約、④パブリック・コメントに寄せられた意見をもとに内容の一部見直し等を行い「最終案」を策定、という段階を経ており、計画の記載部分、目標とする経営指標、収支計画等についてもほぼ固まった段階となっています。その骨子と特長等についてご紹介します。

## ○次期経営計画（2019～2024）の特長と5つの基本方向

県民に良質な医療を提供するため、「経常的な黒字経営を目指す」だけでなく、今後の経営に必要となる投資にも対応できる「黒字（経営）体質の確立が必要」であることから、「持続可能な経営」に関する項目が基本方向に盛り込まれています。

また、「良質な医療の提供」と「持続可能な経営」を両立するためには、医師をはじめとする職員の体制整備が必要であることから、「医師確保」、「医師の負担軽減」、「職員の適正配置」に関する項目が盛り込まれています。

### 《次期経営計画・5つの基本方向》

- ◇県立病院間・他の医療機関及び介護施設等を含めた役割分担と地域連携の推進
- ◇良質な医療を提供できる環境の整備
- ◇医師不足解消に向けた医師の育成・確保と医師の負担軽減に向けた取組の推進
- ◇職員の資質向上と患者数等の動向や新規・上位施設基準の算定を踏まえた人員の適正配置
- ◇持続可能な経営基盤の確立

## ○磐井病院の役割・特色と今後の方向性

次期経営計画には全ての病院、地域診療センターについて、立地する「圏域の現状と課題」、「今後の方向性」も個別に記載されます。その中で磐井病院の「役割と機能」、「今後の方向性」についてご紹介します。

◇磐井病院の病床規模については、計画期間中の変更・見直し等の具体的な予定はないこと。

- ・一般305床、結核10床、計315床（許可病床数どおり）

◇圏域の基幹病院としての機能を担い、救急医療、高度・専門医療を担うこと。

- ・救急告示病院として二次救急医療を提供、急性期を中心とした病床機能を担う。
- ・地域がん診療拠点病院として専門的ながん医療、緩和ケアを提供する。
- ・地域周産期母子医療センターとして周産期に係る比較的高度な医療を提供する。

◇地域医療支援病院として紹介患者を積極的に受け入れ、地域の医療従事者に対する研修の開催などを通じ、かかりつけ医の支援、連携を強化すること。

◇臨床研修病院として臨床研修医受け入れを積極的に行うなど、医師（研修医、専攻医を含む）や医療技術者等の研修・養成支援を通じた人材育成を行うこと。

◇地域災害拠点病院として災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣や被災地内の重症傷病者の受け入れを行うこと。

ご紹介したとおり、次期経営計画においても、当磐井病院の役割、機能、目指す方向性にこれまでと比べて大きな方針変更はないとも言えます。しかしこれからも圏域・地域の高齢化は進んでいくことは避けられませんが、これに伴う疾患構造の変化や、薬品・医療機器・医療技術・各種システムの開発・進化などが社会情勢に与えるインパクトも昨今では非常に大きなものがあります。

また、医療機関は医療の現場は、多数の職種・スタッフが下支えしており、人的サービスが基本になっているという点では典型的な職場、事業所でもあり、昨今話題となることが多い政府が進める「働き方改革」などについても直接的な影響を受けやすい環境にあります。

今後も大きな環境変化が予測される中、地域、圏域の中でこれまでと同じ役割、機能を維持し責任を果たしていくためにはいたずらに旧を守るのではなく、状況に応じた内部の改革はむしろ積極的に進めていく必要があります。地域の皆様、連携機関・団体の皆様には引き続きご支援とご理解を賜りますようお願いいたします。

## 県南地区入退院支援

### 看護師等連携会議を終えて

患者支援センター 浅沼 由子

去る10月26日に、県南地区入退院支援看護師等連絡会議が当院多目的会議室で開催されました。

両磐圏域の3県立病院（磐井・千厩・大東）では、平成28年から退院支援看護師の活動報告・情報交換及び問題解決を目的に、同様の会議を年3回開催していましたが、全国的に病院間の連携が重要視される中で、一関市のみならず奥州市を含む県南地区においても近隣病院との連携をより深めるための取組が必要であるとの考えから、昨年度より前述の3県立病院を含む県南地区の14病院が参加する『県南地区退院支援看護師等連携会議』を開催しています。

今年度は、各病院の看護師長・入退院支援看護師・MSW・地域連携室等の参加があり、入院時支援加算の算定開始を受けて、名称を「入退院」と改称しました。

各病院から「自院の特徴・受け入れ状況」「診療報酬改訂後の入退院支援に関する活動内容等の情報共有」等を発表して頂き、互いの現状を具体的に知る良い機会となりました。その他、「在宅復帰率の維持に関する取組」「診療報酬改訂に伴う居宅事業所等からの依頼への対応」「退院時共同指導料の算定方法」等についても意見が交わされ、各病院での対応を共有する事で、今後の活動への糸口となりました。

この会議を開催する最大の利点は「顔の見える連携」です。病院間の連絡は電話対応がほとんどですが、会議前や終了後には参加病院間での挨拶や名刺交換等の場面が多く見られ、顔合わせ・意見交換の場として活用されており、電話では確認出来ない相談等を行うことが出来ました。多忙の中、また遠方より参加いただいた病院もありましたが、お互いに有意義な時間となったと思います。

来年度以降も、一関市及び奥州市を含む近隣病院との連携をより深めるため継続開催を考えております。



## 認知症の研修会（一関市医介連主催研修会）

### を開催しました



【会場写真】

当院は『一関市医療と介護の連携連絡会（通称：医介連）』に参加しており、一関市との共催で毎年研修会を行っています。今年度はテーマを『認知症と地域支援 -認知症患者のためにわたしたちが行っていること-』と題して、10月28日に一関保健センターを会場として開催し、一関市内の各機関からそれぞれの認知症に対する取り組みや対応など4題の講演を行いました。

市の担当課である長寿社会課からは、高齢者福祉計画の説明のほか、初期認知症への支援チーム、徘徊高齢者のためのネットワークなど様々な取り組みについて資料を交えて紹介いただき、また一関警察署：生活安全課からは、行方不明者の状況や認知症患者の取扱い件数など具体的な対応実績を中心にお話いただきました。

さらに医療機関の取り組みとして、南光病院の認知症認定看護師及び磐井病院の神経内科医師より、認知症の症状や予防、進行・症状の度合いに応じた実際の支援、加えて認知症についての間違いやすい認識についても説明させていただきました。

「認知症」という身近なテーマで関心が高かったことが伺え、当日は一般の方及び医療・介護関係者併せて100名を超える来場があり、アンケートからも「分かりやすかった」「知らないことが分かり勉強になった」というコメントが多い結果でした。

今後も、地域のニーズに沿った講演会を開催して参りますので、皆様ぜひご参加いただければと思います。